ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成30年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1　博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は，博物館法第20条の規定に基づく法定組織であり，茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員は13名で，任期は2年となっている。うち1名は一般公募により選出されている。

会議は，委員長によって招集され，通常年2回開催している。

博物館法

第20条　公立博物館に，博物館協議会を置くことができる。

2　博物館協議会は，博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに，館長に対して意見を述べる機関とする。

2　日時

平成30年11月7日（水）14時00分～15時40分

3　場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館　講座室

4　出席者

臼井多賀子委員，大月光司委員，木村洋美委員，染川香澄委員，田切美智雄副委員長，田中ひとみ委員，中原常雄委員，藤原早苗委員，水嶋英治委員長，鷲田美加委員

※事務局出席者

横山一己館長，小川均参事兼副館長，北條薫管理課長，泉水正和企画課長，稲葉伸一郎教育課長，中嶌政明資料課長，江原章子係長，小池渉首席学芸員，池澤広美首席学芸員，小幡和男首席学芸員，山中久司主査，吉田典子主査，芦川孝明係長，鵜沢美穂子副主任学芸員，松浦卓也主事，福田彩香主事

5　議事概要

（1）議案説明（事務局）

議題

（1）平成30年度前期事業の報告について

（2）平成30年度後期事業計画について

（3）予算・決算などについて

（4）その他

（2）質疑・意見交換

○議題（1）～（4）について

A 委員：

研究の新体制について，重点研究以外にも博物館研究や展示，利用者の研究など，博物館を運営していくための研究にも力を入れたら良いと思う。利用者研究があれば，より良い展示内容にもつながるし，今度展示のリニューアルをするときにも役立つと思う。

企画展のポスターやタイトルが，内容が少しずれている時がある気がするがどうか。

事務局：

博物館の研究に関しては，予算が十分にあるわけではないが，各自が調査研究し，職員の研究発表会で発表するシステムにしている。今後も博物館での研究は続けていく。

ポスターについてだが，今回，台湾からの団体で変形菌展を見るためだけに来た人がいた。それほどポスターの威力は大きい。あくまでもポスターは人を呼ぶための手段だと考えている。中身は火山展も含めて内容の濃いものだったと思う。今後もポスターにかかわらず，できるだけ内容の濃いものにしていきたいと考えている。できるだけ良い展示にしたいと思うが，より大勢の方に見てもらうことも重要だと思う。

B 委員：

博物館の使命として,教育普及という面と調査研究という面の２つの役割があると思う。当館はどちらかと言えば教育普及に非常に力を入れている，組織上もそうなっていると認識している。調査研究という方も両者の両輪として，日々研究をしつつその成果を一般の人に公開していくと言うことも博物館としての１つの役割であると考えている。まず，博物館と生物多様性センターがどのように連携して何を目指していくかというところが非常に不明瞭なので，今後のことがわかれば教えていただきたい。

また，これから入館者を増やすにはやはりインバウンドということで，外国の方の来館というのは非常に大きな部分になっていると思う。多言語に対応している機能があると発信できればもっと来館者が増えると思う。多言語対応のためにもボランティアの活用と言うことは非常に大きなテーマと思うが，今，ボランティアの高齢化や新たなボランティアの獲得の難しさが非常に課題になっている。もう少し若い主婦層とか，安価で働いて下さる能力の高い方を活用するという面を含めて何らかの対策があったらいいのではないかと思う。

それともう一つ，野外プログラムの新たなワークシートも，これも英語版を作り，その存在を発信したらと良いと思う。それと，コンプリートしたときのスタンプラリーのような仕組みがあると意欲が沸いて良いのではないか。

事務局：

野外のワークシートについては，自然発見工房に行けば答えを教えてくれるようになっている。ボランティアに関しては，少しずつ増えており，若い人も入ってきているので，あまり心配していない。また，イベントがあるごとにボランティア以外にもジュニア学芸員が手伝ってくれる。昆虫観察会やウォークラリーなども同様に対応していただいており，今のところあまり心配していない。

インバウンドについてだが，先月，自然博物館館長会議があり，国立科学博物館でかなり正確に計ったら 3.7%しかなかった。当館は地方なのでさらに少ない。今，マンパワーをどこに集中しなければならないかというと，インバウンドではないだろうと考えている。それがたぶん 10%になれば，本当にインバウンドを考えて多言語化もたくさんやらなくてはならないと思う。当館に来る外国の人は車でないと来ることができないため，今のところとても少ないのが現状である。

研究についてだが，生物多様性センターとの連携はとても重要な問題だが，圧倒的に予算がないのが実情である。総合調査研究なども，国立科学博物館の 100 分の 1 くらいの予算でやっている。教育普及は予算があまりかからないので，当館では教育普及事業に集中しているのが現状である。

C 委員：

予算や人数が少ない中，良くやっていると思う。くだもの展のポスターを子どもが指さして，これに行ってみたいよね，と言っていた。ポスターや着ぐるみは子どもが飛びつく。果物というのは子どもにとっても身近なもので，子どもが行きたいと思う，良い企画展だと思う。野外での活動もできるので，幼稚園などにとっても，身近で利用しやすい施設だと思う。

D 委員：

アクセスについてだが，茨城はどこの施設でも車で来るのが当然という感覚だと思う。しかし，最近は免許を取らない若者も増えているし，高齢者の免許返納も多くなっている。これからの時代は，今のように車で来ることを前提としていて良いのだろうか。入館者の増ということを考えるのであれば，おそらく東京を含め，近郊，首都圏からの呼び込みをもっと狙ったほうがいいと思う。東京から来る人たちは，おそらく車前提ではないと思うので，その時には，公共交通機関で，TX，バスも含めてのアクセスをぜひ作っていただけたら良いと思う。これは一博物館でできることではないと思うので，色々な形で，県や市を含めて呼びかけていった方が良いと思う。アクセスから言えば，東京，千葉，埼玉，栃木，そういったところにも呼びかけて言った方が良いのではないか。

また，これからリタイアした人を含めて知的好奇心を満たしたい，とか，教養，少しでも賢く生きたいというニーズもとても高まってきていると感じている。異常気象が毎年のように話題になっているので，例えば，地震，気象など防災，減災につながるような，企画展や半常設のような展示があっても良いと思う。

事務局：

確かに当館は車でないと来るのが難しい。バスは守谷駅から 1 日に 3 便しかないが，千葉県の東武アーバンパークライン愛宕駅からはバスが 1 時間に 1 本出ている。館としても前からバスを頻繁に通して欲しいという要望はしている。5 月の連休の 3，4，5 日に守谷駅から無料シャトルバスを出した。あらかじめホームページにも上げて，公共のバスも合わせると 1 時間に 1 本くらいになったのだが，少ない人数しか乗らなかった。予算をかなりかけた割には無料なのに全然乗ってこなかった。2 年間続けたが，少なかった。

D 委員：

5 月の連休のシャトルバスについては，一般にどの程度浸透しているかということもある。HP に載せれば誰でもわかっているという訳ではなく，いつもやっていないとわからないこともある。後，ゴールデンウィークの時だと，他にも観光するので，博物館だけでなく，周囲も回りたいというお客さんもいるだろう。

事務局：

ともかく，アクセスが悪い。一番良いのは愛宕駅から 1 時間に 1 本のバスで来ることで，そういう人は時々見るが，後は，99%か 98%は車で来る。交通機関をもっと良くして欲しいと我々はもちろん要求しているが，バス会社の利益が上がらないとどうしようもない話で，地下鉄でも通れば一番楽なのかも知れないが，それはさすがに無理だと思っている。

もう一点，防災展示に関しては，夏に開催した火山展では防災も含めた展示をしたところ非常に好評であった。震災 10 周年に地震の展示を予定しているが，地震については様々な問題も予想されるので専門家をきちんと集める必要があると感じている。

E 委員：

私は子ども会に関わっているが，これから色々な役員会の折に，自然博でこういうことができる，こういう企画展やっているという PR をして，それを各子ども会に周知して，できるだけこの博物館で児童たちが勉強していけるようにするのは子ども会の活動としては重要なことではないかと考えている。学校以外の子ども会などの団体がどの程度こちらに来ているのかがデータとしてあれば教えて欲しい。

事務局：

子ども会に関しては，昨年度はこちらで登録されているのは 27 団体，その前の年が 31 団体であった。今年度はもう既に 15 団体来てくれている。子ども会の場合は 7 月の末から 8 月の夏休み，それから，9 月 10 月の土日あたりに来ることが多いようだ。子ども会で来館される場合は，自由に見学する場合と，こういうことをやってほしいと依頼があって，講師派遣という形で学芸員がネイチャーゲームなどを行う場合がある。だいたい子ども会は年間に 30 団体で，これは高校や中学校と同じくらいの団体数という感じだ。来ていただいた子ども会は，子どもたちも熱心に見学していて，中での活動についても私たちもアドバイスをしたりしている。

E 委員：

来館する子ども会は，この周辺よりは少し離れたところが多いのか。

事務局：

10 月には高萩の方や，水戸や県北地域からも来てくれた。比較的，県南と埼玉が多い。

E 委員：

坂東市は子ども会が活発で児童の加入率も高いが，家族で来てしまうのか。

事務局：

坂東市の子ども会はほぼ来ていない。やはり，子どもたちが幼稚園などの遠足などで来たことがあるからかも知れない。指導者の方に聞くと，子どもたちがわざわざ行くのに，近くではなく遠くがいいという意見も聞いているので，比較的，県内でも離れたところの方が子ども会は良いようだ。子ども会の連合会などにも PR 活動をしていきたいと思っている。

F 委員：

親戚の話だが，子どもたちを夏休みに博物館に連れてきたら，子どもたち同士で展示を

見たり外に行ったり勝手に遊んでくれるので，とても良かったと言っていた。親にとっては良いところなのだと思う。展示の内容でも，子どもたちには少し難しすぎるのではないかと思う内容の所もあったが，動く恐竜とかを見て皆楽しんでいて，大きなミミズとかもとても喜んでいた。あと，パソコンでのクイズ形式の展示もあって，そこでずっと遊んでいたのが印象的だった。大人の私たちからしても，展示の内容に書いてあることがすごく専門的で，難しいと思うところもあるが，来て，ここで見て良かったと思える内容がたくさんあったので，素晴らしいところだと思った。

夏に火山展を見に来た時，火山の研究者の方が家族で来ていて，お父さんが子どもたちに展示の説明を色々していた。私も，少し難しい展示だと思いながら見ていたが，そのお父さんの話を聞きながら見ていたら，とてもわかりやすかった。企画展の時に，説明してくれる人がいると，皆さんもっとより理解して帰られるのではないかと思う。予算の関係や人員の配置で大変だとは思うが，そういうものがあったら良いと思う。

事務局：

展示内容を説明するとなると，例えば火山の専門は１人しかいないので，日時を決めて実施して，それに合わせて来てもらうことになる。友の会や，一般向けの案内も何回かやっているが，職員が少ないので，時間に合わせて来ていただいているのが現状である。

G 委員：

ポスターについてだが，やはり，目で引きつける，行きたいと思うようなデザインにすることについては，ある程度納得している。私の孫も，くだもの展の解説書の表紙を見せたら，とても喜んで見ていた。幼児に対しては，少し易しめのものも興味を引くのだと思う。先ほどの説明の中で，シートがダウンロードできたりして体験できるようなことがあったが，とても良いことだと思う。自分でダウンロードして持ってきたらスタンプとか何かで，いくつ集まれば何か特典があるとか，そういう取り組みも子どもたちは喜ぶのではないか。

企画展に関しては，例えば火山や地質のような企画展があれば，ジオパークなどと関連づけて，この近辺でこのようなコースもありますと紹介するのも良いのではないか。くだもの展では近くの農家でフルーツ狩りができるなど，そういうのをあわせると，リピーターが増えるのではないか，という感じを受けた。

事務局：

火山展では，筑波山は火山ではないのでやらなかったが，那須岳の観察会を実施した。くだもの展では，先週， 有料ではあるが，筑波山の下に果樹園が多いので，そこへ行って果物を採って学芸員が説明を行った。回数は少ないが，必ず１つの企画展に対してそのような取り組みを何か実施しているので，そこに合わせて参加していただければ良いと思う。

H 委員：

限られたマンパワーと予算の中で最大限に尽力していると思う。この博物館は変化し続けているという感がとても外から見て感じている。さまざまなことを本当に変化させて進化しているというのが，「動き」として外に伝わっているのがとても良いと思っている。先ほど野外施設の野外クイズを絞って再構成したとの説明があった。たいてい，前任者から引き継いで増やすことはできても減らすことはとても勇気がいると思うが，そういうものを減らす，やめる勇気というのもとても大切だと思うし，その時その時で一番適切な形で，英断している様子が外にも伝わっている。そういう変化というのを常に今後も持ち続けていただきたいと思う。

もう一つ，届ける工夫を本当にあらゆる方法でされていて，私はつくばに住んでいるが，企画展が変わるごとに横断幕が掲示されて，行かなくても，一年間，今何をしているかというのがしっかり目に入っていた。横断幕に限らず，チラシ，ポスターだとか，移動博物館だとか，本当にありとあらゆる形でプロデュースしているのはすばらしいと思っている。これからもぜひ継続していただきたい。

今後のことについて，来館者数というのは外に向かって一番評価の対象になってくると思うが，目的を考えると，目的は来館者数を増やすことではなくて，その自然と人間との共和共存というのを当たり前のように考えられる人が増えることだというふうに思う。そうすると，今，実施している移動博物館の人数だとか，外に向かってしていることはもっとグラフで表せないぐらい効果を上げているのだと思う。ぜひそれをこの表に加えていただきたいと感じた。もう一つ，近説遠来という孔子の言葉があるが，中で人が楽しそうにしているとそれを見て外から，遠くからも人がやってくるという言葉がある。博物館の中で，職員やボランティアさんたちが輝いて，お互いにありがとうね，と言う言葉を交わし合っている状態が外に伝わってきていると思う。先ほど，館長の説明の中で職員が努力してくれているおかげという言葉があったが，本当にそういうことがすごく大事だと思っている。それをもっと外に出していただいて，展示の中でもフィーチャーされているが，ボランティアの方ももっと取り上げると，博物館の機運も上がると思う。

事務局：

入館者数は行政としても重要だと考えている。自然との調和と言う指摘があったが，当館は職員だけではなくてボランティアも鳥の観察会やキノコの観察会など，我々がフォローできないくらい頻繁に実施している。ボランティアが楽しんで，来館者とともにキノコを見つけて，そういう風景が一番面白いと思っている。私も職員も混雑時には駐車場係までやっているが，それを含めても楽しくやっている。

I 委員：

私は今，中期計画 2020 が一番気になっている。非常に変化に富んでいる今の世の中で，博物館も今までのような考え方でずっといくというわけではないと思うので，次のステップとしての中期計画がどうなるかということに非常に関心がある。ぜひ，非常に良い，しかもその時代に合った中期計画にして欲しいと思っている。特に，知事の意向も踏まえつつ，博物館が動けるような中期計画を考えていただければ良いと思って期待している。

議長：

多言語化の問題，生物多様性の問題，ボランティアの問題，調査研究，展示，等々色々と意見があった。できるものとできないものとあると思うが，今日の意見をふまえて，また次の協議会においても，今日の中身を踏まえてこうしました，というフィードバックがあればありがたい。

（閉会）